

## 怖い病気、それは麻疹

院長

今回は麻疹の怖さと問題について、考えてみましょう。

皆さん、麻疹（はしか）にどんなイメージを持っていますか？。「恋愛は麻疹のようなものである。われわれは皆それを通り過ぎなければならない。（ジェローム）」、「麻疹のようなもの、時がたてば治る」という古い格言もあります。こんなイメージが定着しているので、麻疹は軽い病気と考えてしまいがちです。英語の語源では「悲惨な（ミゼラブル）」から来ていると言われています。また日本でもその昔、「命定め」といわれ、こどもの病気の中でも一番重く、命を左右する病気とされていました。医学は進歩していますが、この麻疹という病気の重さには何ら変化はないのです。

症状に関しては、小児科ミニ知識にもあるので簡単にします。症状の始まりは、熱・咳・めやに等で、普通の風邪と区別できません。その後一旦熱が下がりかけ、再び熱の上昇とともに発疹がでてきます。発疹は全身に広がり、高熱(39～40度)となり、食欲や元気がなくなります。中耳炎や肺炎などの合併症が約30%で見られ、平均の入院率は40%にも達する今でも重症な病気の一つです。

初期の症状がカゼと区別できないことと、感染力が強いために、感染を防ぐ手立てはありません。もちろん、治療法が無いということは言うまでもありません。唯一の予防法は予防接種です。しかし、残念なことに予防接種率は先進国のなかでは最も低く約80%程度です。予防接種の有効性は明らかで、接種率が90%を超える国ではほとんど流行はなく、欧米では患者が年間100人にも満たないところもあります。はたして日本では年間何人の患者が発症しているのでしょうか。正確な数はでていませんが、何と10万人以上が発症しているとされています。また麻疹で死亡する子どもは、50～100人前後もいると考えられています。日本から麻疹が持ち込まれるため欧米諸国の間では、悪名高き麻疹の

輸出国として位置づけられています。最近では子どもだけでなく、成人の麻疹も問題になってきています。

麻疹の発症数は地域によって違いますが、1998年に沖縄で大流行し約2000人が発症し、8人の乳幼児が死亡したことが大きな問題となりました。それを契機に2001年“はしか0プロジェクト”を発足させ、小児科医と行政の協力によって確実に効果が挙がっています。その後も各地で麻疹が大きく取り上げられ、麻疹撲滅のための運動が広がりはじめました。

さて我々が住んでいる宮城県ではどうでしょう。予防接種率が低い地域によっては流行を繰り返し、この春には仙台市の一部でも流行がありました。麻疹に対する対策は個々の医師の啓蒙活動が中心で、未だ撲滅に向かった大きな動きはありません。もう一つ大きな問題があります。仙台市では麻疹は無料で接種を受けられますが、県内の市町村によっては負担金を課すところもあり、そう言う意味では国内でも後進県と言わざるを得ません。負担金が接種率を低下させている可能性も否定できません。この問題については7月の東北放送のラジオ出演の折りにも話したので、聞かれた方も多いかもしれません。

世界的には麻疹撲滅の方向に傾いていて、WHOではポリオにつぐ目標にすべきかということが議論されています。先進国であるにもかかわらず、多くの子どもたちが麻疹によって失われています。インフルエンザで死亡する子どもたちよりも多いのです。有効なワクチンによって予防できるというのに、十分な国家的対策がなされていません。少子化の時代子ども命の重要性は、誰もが認めることです。

麻疹撲滅という大きな目標がありますが、まず身近なところからは始めることにしましょう。少なくとも当院に通院している1才を超えているお子さんは早めに予防接種を済ませましょう。そして麻疹の怖さを、周囲に伝えて下さい。次々と伝えてもらうことによって、麻疹に対する意識が広がっていきます。負担金を無くすことも含め、こうした草の根の運動から大きな動きにつなげましょう。

麻疹の予防接種は、「1才の誕生日の最高のプレゼント」の一つです。子ども守ること、これが親御さんの役割の中で最も大きいことだと思います。失う命を救うことのできる予防接種が目前にあるのです。それを使わない手はありません。



## 8月のお知らせ

・学会による休診

8月29日(金)午後～30日(土)

皆様には大変御迷惑をかけますが、御理解と御協力をお願いします。

・栄養育児相談

毎週水曜日13:30～



## 読者の広場

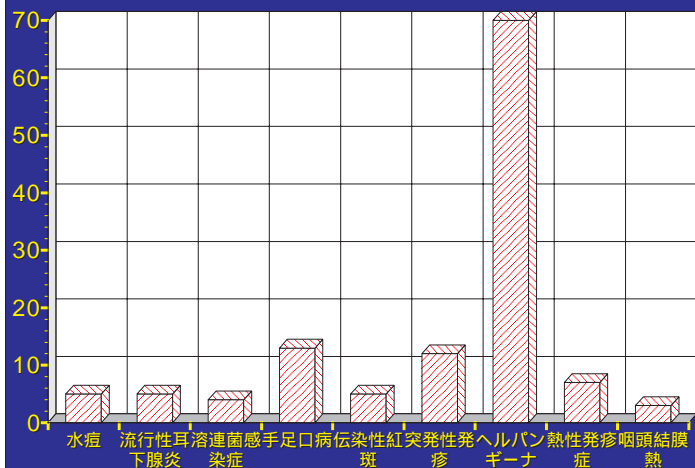
今月はメールは比較的少なく、16通でした。また投書は2通頂きました。



ありがとうございました。先月は学生さんが2人来ました。御迷惑をおかけしたかもしれませんが、御協力ありがとうございました。先月号の記事でも紹介した学生実習に対する感想を宮城野区相沢さんから頂きました。「今日は医学生が実習に来ていたんですね!! すっかり、小児科医になる医学生だと思っていました! 違うんですね(>\_<)ただでさえ、小児科が少ないのに研修に来て他の科になってしまうのは残念でなりません(;\_;) 今日の医学生の方は、お家は小児科との事でしたので(!?) 必ず小児科になってくれる事でしょうo(^-^o 期待してるとお伝え下さい!! 子供三人の母としては、『内科小児科』ではなくて『小児科』に連れて行きたいのが本音です。しかし、小児科が近くになれば内科に連れて行くしかないですよ...川村先生をみて、小児科を目指す医学生の方が増えることを期待します\(^o^)/」。まさにその通り(大きな声で言うてはいけなかもしれませんが?)!。このメールを学生さんにも送っておきました。小児科が増えるといいですね。続いては青葉区の宮坂さんから頂いたメールです。文字数制限があり何回にも分けて送ってくれたものです。「宮坂翔と翼の母です。文字数制限のある携帯のため何度かにわけて送信する事と夜遅くの事お許し下さい。今日は話を聞いて頂き有り難うございました。先生に相談するまでは何がいけないか? どうしてあげればいいのか? イライラと悩みで一杯でした。親子共々先生に診察していただいてから笑顔で一日を終える事が出来たした。有り難うございました。これからも親子共々宜しく願います。最後になりますがくれぐれも体を一番に考えて頑張ってください。翔と翼の母より。」。ともかく子育てで心配があれば、どんなことでも相談してみてください。理念は「お母さんの不安・心配の解消」なので、こんなメールもらえの嬉しいかぎりです。有り難い投書がありましたので、紹介します。「受け答えしてくれた看護婦さん、いつもやさしくあたたくお話を下さり、ありがとうございました。今日は本当にすくわれた気がしました。」。この投書に関しては掲載の意志の確認が難しいので、匿名とさせていただきます。クリニックの顔は医師だけではなく。スタッフ一同このような評価を頂くように、努力していきたいと思えます。もう一つ投書でご提案を頂いたので紹介します。「かわむらさんの待ち時間は、大学病院並です。せめて自分の順番があと何番目なのかわかると、精神的にイライラしなくて済むので、受付地に名前を書き込むノートを用意して、順番が来た人を消していく等していただけないでしょうか。別のところで以前鉛筆で消されたので、その際はボールペン記入ということにしてほしいと思えます。」。貴重な提案ありがとうございました。このところ、そんなに混雑はないのですが?。たまたまだったかもしれませんが。さっそく対応していきたいと思えます。皆さん、**来院の際にはノートへの記入**、よろしく御協力お願いいたします。

先月号でもお知らせしたプロモ(?)を待合室で流しています。御感想など頂ければと思えます。看護スタッフの佐藤君が産休のためお休みしています。佐藤君からのコメントです。「産休に入り、みなさんにご迷惑おかけしています。元気な赤ちゃんを産んで、新米ママの看護スタッフとなり10月には復帰する予定です。産休明けにみなさんにお会いする日、楽しみにしています。」。御迷惑をおかけしますが、よろしく願います。

## 7月の感染症の集計



毎年夏になると流行する、高熱とどの痛みが特徴のヘルパンギーナがかなりの勢いで増えています。このところ多く見られていた水痘やおたふく、溶連菌感染症などの定番の感染症は減少してきています。大流行ではありませんが、プール熱や手足口病なども目立ってきました。

## 夏季休暇のお知らせ

8月13日(水)~17日(土)

皆様には大変御迷惑をおかけしますが、御理解と御協力をお願いいたします。薬の期間などについては、御相談下さい。

## コンサートの御案内

### 宮城県立こども病院

### 開院記念チャリティガラコンサート

日時: 10月2日(木) 18:30開場

場所: 宮城県民会館

こども病院の開院に合わせて、チャリティガラコンサートが開かれます。佐藤宗幸さんを司会に迎え、仙台フィルと4名のソリストを迎え開催いたします。詳細はポスター、チラシをご覧ください。

このような豪華な顔ぶれのコンサートは、めったにありません。チケット御購入希望の方は、受付まで。

## 編集後記

毎年夏休みが楽しみです。リフレッシュして、冬の忙しさに備えたいところです。ところが今年は事情が違います。仙台での大きな学会の準備(総務としての仕事以外に、発表まであります)。とても休めないと今から思っていますが、やはり楽しみであることは事実です。スタッフ一同リフレッシュしてきます。

